┏┳━━━━━━━━━━━━━━━━ 2022.07.29 ━━
┣╋┓ 数研国語だより 第4号
┗┻┻━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

［3］加藤徹先生コラム ≪『国語』や『古文』がない国≫

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

米国や英国の学校には English の授業はあるが、国語（national language）という課目名はないらしい。

日本のような検定教科書もない。

アングロサクソン的な価値観は、個人主義と自由主義をたっとぶ。

英米人は、国が「文字改革」とか「国語」などをトップダウンで国民に押しつけることを嫌う。だから英語はいまだに「旧仮名遣い」状態だ。takeはタケではなくてテイクと読む。

また英米の中高生は「古文」も学ばない。英語の歴史は古英語、中英語、近代英語、現代英語に4分される。中高生が学校で習う最も古い教材は、今から400年ほど前の、初期近代英語のシェイクスピア（1564年-1616年）あたりだ。

日本の「古文」はすごい。古文の期末テストでは、1200年前の『万葉集』も平気で出題する。

中華人民共和国の中高生はもっとすごい。学校の「語文」（日本の「国語」に相当）の「古文」（中国語の「古文」は漢文の意）のテストでは、3000年くらい前の『詩経』の原文を出題する。

日本人も中国人も、常用漢字とか簡体字とか国が「国語」の規則を決めるのは当然、「古文」を学ぶのは当たり前だと信じている。

世界は広い。みんな違って、みんないい。

┏┳━━━━━━━━━━━━━━━━ 2022.09.21 ━━

┣╋┓ 数研国語だより 第6号

┗┻┻━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

［2］加藤徹先生コラム「漢文の特異性 その1 耳で聞くだけではわからない」

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

「漢文は外国語だ。古代中国語だ」と言う人がいる。

半分正しく、半分まちがいである。

「漢文は人工言語であり書記言語である。自然言語である中国語とは違う」

というのが真相だ。

中国語を含む言語は、基本的に自然言語だ。ネイティブスピーカー、つまり母語話者が

存在する。自然言語の基本は音声言語だ。ラジオ放送もできる。

自然言語という点では、西洋の古典ラテン語も古典ギリシア語も、日本の古文も同じだ。

西洋では21世紀の今も、ラテン語によるニュースのラジオ放送をインターネット上で

聞ける。英語ほどではないが、ラテン語も国際語としての命脈を保っている。

この点、漢文は特殊だ。漢文は、漢字を目で追いながら意味を理解することを前提とした

人工的な書記言語だ。同じ情報量なら、自然言語の半分くらいの文字数で簡潔に書ける。

実際、漢文を現代中国語に翻訳すると、2倍以上、長くなるのが普通だ。

例えば『論語』の冒頭部分。

A:子曰「学而時習之、不亦説乎？」

B:孔子説「学習了（知識）、然而按一定的時間温習它、不也高興&#21966;？」

Aは漢文の原文、Ｂは現代中国語訳である。

漢文は、簡潔だが、言語的冗長性を犠牲にしており、「同音衝突」も多いため、

漢文の音読を耳で聞くだけだと、中国人も意味を半分くらいしか理解できないのだ。

いっぽう、日本の漢文訓読による「読み下し」は、「てにをは」その他の言語的冗長性が

多めなので、漢文訓読の音読だけを耳で聞けば、半分以上は意味がわかる。

┏┳━━━━━━━━━━━━━━━━ 2022.11.4 ━━

┣╋┓　　数研国語だより　第8号

┗┻┻━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

［2］加藤徹先生コラム「漢文の特異性　その2　母語話者がいない」

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

漢文には、原理的に母語「話」者が存在しない。

中国人といえども、漢字や漢文は座学で学ばねばならない。

孔子も諸葛孔明も李白も杜甫も、母語はそれぞれの時代の中国語だった。

孔子だって、赤ちゃんだったころは中国語の喃語（なんご）、

つまり乳児が「んまんま」と言うような意味のない音声をしゃべっていたのだ。

昔の中国人にとっても、漢文は座学で習得する学習言語だった。中国語とは別物だ。

漢文には母語話者がいない。学習言語あるのみ。そのぶん、外国人には有利だ。

菅原道真や夏目漱石は、日本人だが、勉強して立派な漢詩を詠んだ。

逆に、座学で漢字を学べない人は、漢文の世界から締め出された。

識字率が低かった貧しい民衆、特に女性や、目の不自由な人は、漢文とは縁が遠かった。

詩人のホメロスやマアッリー、歌人の蝉丸は盲目だったと伝えられる。

一方、盲目の漢詩人は、あまり聞かない。

古文の「百人一首」の歌人のうち女性は21人である。

漢文の「唐詩三百首」の77人の漢詩人のうち、女性は杜秋娘ただ1人である。

漢文も漢詩も、生徒への教材としてふさわしい名作が多い。

が、漢文には暗黒面もあったことを忘れてはならない。

┏┳━━━━━━━━━━━━━━━━ 2022.12.13━━

┣╋┓　　数研国語だより　第9号

┗┻┻━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

［2］加藤徹先生コラム「漢文の特異性　その3　演説ができない」

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

「演説」は、福沢諭吉がスピーチの訳語として考案した新漢語である。

西洋には昔から演説があった。古代ギリシアのギリシア悲劇のセリフは、スピーチじみている。

ローマのカエサルも、演説の力で世論を味方につけた。

これに対して、漢文の論説文を中国語で音読しても、演説にはならない。

中国人も、耳で漢文の音読を聞くだけでは、意味を半分くらいしか理解できないからだ。

ニワトリと卵の関係だが、古代中国には演説を必要とする「市民」も「議会」もなかった。

演説がなかったから「市民」も「議会」も育たなかった。

『論語』の孔子は、弟子たちと対話するが、老若男女の群衆にむけて演説することはない。

『三国志』の諸葛孔明も演説はしない。孔明は漢文で「出師の表」を書いた。

千古の名文だが、演説ではない。

古代のギリシア・ローマの演劇も、シェークスピアの芝居も、

西洋のセリフ劇は、演説力を磨く教材でもある。

中国は違った。近代に入り、日本経由で西洋演劇が伝わるまで、

中国に純粋なセリフ劇はなかった。中国の古典劇である崑劇や京劇は、海外でも有名だ。

だが、崑劇や京劇のセリフや歌詞は「漢文」ではない。崑劇や京劇のセリフの言語は、

漢文を中国語で薄めてわかりやすくしたような、独特の人工言語である。

日本では「返り点を使う漢文訓読は時代遅れだ」と主張する人もいる。

「漢文は外国語なので、国語ではなく、外国語の授業で扱うべきだ」という主張もある。

しかし、漢「文」が外国「語」であるとは、単純には言えないのだ。

人工言語であり、書記言語である漢文は、世界的に見てもユニークな言語なのだ。

┏┳━━━━━━━━━━━━━━━━ 2023.2.16━━

┣╋┓　　数研国語だより　第11号

┗┻┻━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

［2］加藤徹先生コラム「漢文の特異性　その4　漢字でしか書けない」

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

漢文という書記言語は、漢字でしか書けない。これは特異だ。

日本語は「漢字かな交じり文」だが、その気になれば「かな」だけでも

ローマ字でも書ける。

インド起源の古典語であるサンスクリット語やパーリ語は、そもそも固有の文字がな

い。

両言語は仏教の聖典の原語でもある。大事なのは音声で、

両言語を記録する文字は時代や地域ごとにバラバラだ。

パーリ語は南伝仏教の経典で用いられるが、スリランカではシンハラ文字、

ミャンマーではビルマ文字、タイではタイ文字、と、

各国の仏教徒は自国語の文字を使って表記する。

現代の学者は、サンスクリット語もパーリ語も、ローマ字で書く。

日本のお墓の卒塔婆の梵字(悉曇文字)も、実は地域限定、時代限定のローカルな文字

だ。

昔のお釈迦さまも、現代のインド人も、卒塔婆の梵字は知らない。

「漢文を現代中国語で音読した発音を、そのままローマ字で書けないの？」

書けますよ。でも読めません。「同音衝突」が多すぎるので。

例えば「是」「事」「世」「士」の中国語の発音は全部同じ「shi4（第四声）」に

なってしまう。

┏┳━━━━━━━━━━━━━━ 2023.3.28━━

┣╋┓　　数研国語だより　第12号

┗┻┻━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

［2］加藤徹先生コラム「漢文の特異性　その5　千年前の古人と友だちになれる」

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

漢文の悪口(？)を書いてきたが、漢文には良い点もある。長持ちすることだ。

現存最古の漢文は、

殷王朝(前17世紀ごろ-前11世紀)後期の遺跡から出土した「甲骨文」だ。

例えば、「今夕雨不雨、在三月」は

「今夕、雨ふるか、雨ふらざるか。三月に在り」と訓読できる。

三月のある日の夕方の天気を占った記録だ。三千数百年たっても意味が通じる。

漢文は文法も基礎語彙も、変化していない。

日本人が中学や高校の授業で習う孔子や李白、杜甫の言葉も、

漢文で触れると、現代語訳にはない独特の迫力がある。

三国志のファンの中には、西暦227年に蜀の諸葛孔明が書いた漢文「出師表」を読み、

まるで孔明が自分の隣にいるようなぬくもりを感じ落涙する人もいる。

古人の書を読み、古人の心と知恵に触れ、古人を友として心の中で語りあうこと。

これを漢文では「尚友」(しょうゆう)と言う。

「誰も私のことをわかってくれない。今の時代に友だちはいない」

ならば、漢文の世界に遊び、古人を友としよう。

漢文は、それぞれの人生を個性ゆたかに生きた無数の古人の「肉声」である。

きっと、時代を越えた友が見つかるはずだ。

┏┳━━━━━━━━━━━━━━ 2023.5.18━━

┣╋┓　　数研国語だより　第14号

┗┻┻━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

［2］加藤徹先生コラム「中国古典と日本人(1) 　漢文訓読のリスニング」

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

漢文でもリスニングは有効な学習方法だ。目で漢文を読まず、耳で漢文訓読の音声を聞く。

慣れれば、半分くらい意味がわかる。

日尾荊山『訓点復古』が紹介する挿話。江戸時代中期の漢学者・並河天民の父親は、

文字の読み書きが全くできない農民だった。あるとき、幼少の天民が、

父親の前で『論語』子路第十三章十八節を音読した。

「ショウコウ、孔子にかたって、いわく『わがトウに、みを、なおうするものあり。

その父、ひつじをぬすめり。しかるを、子、これをあらわす』」。

これは、江戸時代の古いスタイルの漢文訓読だ。漢字を訓読みする比率が、今より高かった。

これを聞いた父親は「聖人の本にも、こんなことが書いてあるのか」と眉をしかめた。

天民は続けて

「コウシのいわく『わがトウのなおきものは、これにことなり。父は子のためにかくし、

子は父のためにかくす。なおきこと、そのうちにあり』」と音読した。

父親は「まったく、そのとおりだ」と感心したという。

21世紀の今日では、インターネットの動画投稿サイトで、漢詩や漢文の朗読を聴ける。

漢文訓読のリスニングの自習教材には事欠かない。

ただし、明治以降の近代的な漢文訓読では、漢字を音読みする比率が高い。

そのぶん、リスニングの難度も高くなっている。

┏┳━━━━━━━━━2023.09.04 ━━

┣╋┓ 数研国語だより 第18号

┗┻┻━━━━━━━━━━━━━━━

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

［2］加藤徹先生コラム「中国古典と日本人(2) 漢字の意味の変化」

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

漢字は古代中国で生まれた文字だ。

中国では長年、民衆が漢字を使っているうちに意味が変化してしまったものが多い。

日本の漢字のほうが、かえって古代中国での本来の意味を残している例も少なくない。

「走」という漢字は、中国では時代がくだるにつれだんだんスピードが遅くなり、

現代中国語では「歩く」という意味になった。

中国語で「走る」は、「パオ（足に包と書く漢字）」である。

故事成語「走馬看花」は、日本人は「馬を走らせて駆け足で花を見る」という

意味だとわかる。

中国では「馬をゆっくり歩かせじっくり花を見る」と誤解してしまう人も多い。

「湯」は、現代中国語では「スープ」の意だ。「湯麺(タンミェン)」は

スープ麺の意。お湯は中国語では「熱水」(ラーシュイ)と言う。

中国古典の「湯」は、日本語と同じくお湯だ。

『論語』季氏第十六の孔子の言葉「見不善如探湯」(不善を見ては湯を探るが

如くす)も、不善を見たら、誤って熱湯につっこんでしまった手を一瞬で

引き抜くスピードで、それを避ける、の意だ。

「不善を見たらスープを探すようにする(？)」という意味ではない。

実は中国人も漢文(中国人は「古文」(グーウェン)と呼ぶ)は苦手だ。

古文のテストで生徒が四苦八苦するのは、日本も中国も同じである。

┏┳━━━━━━━━━━2023.11.2 ━━

┣╋┓　数研国語だより　第20号

┗┻┻━━━━━━━━━━━━━━━━

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

［3］加藤徹先生コラム「科目横断型の漢字教育」

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

福井県では毎年「白川静漢字教育賞」の表彰を行っている。

この賞は、福井市生まれの漢字学者・白川静博士(2006年に96歳で死去)を

顕彰するため平成25年度(2013年)に創設された。

毎年、漢字教育の実践や成果を全国から募集している。

私は縁あって、過去十年来、審査員の一人をつとめてきた。

応募を見ると、国語の座学の枠にとらわれないユニークな発想の実践も多い。

鳥やウサギの古代文字の形をした木のおもちゃが、自重による重心移動で

コッチンコッチンと坂道をおりてゆく古代文字おもちゃ作り（第6回）。

古代文字の形にちなんだ料理やデザート作り(「光」の古代文字に似せた

ソフトクリームを作った児童の発想には脱帽した) （第10回※）。

特別支援学級や特別支援学校における古代文字を活用した学校教育（第2回、

第7回、第8回）。

※第10回の受賞作品は12月中旬以降に公式サイトに掲載される予定です。

国語以外の科目、図工や音楽、体育、家庭科などでも、教員の工夫しだいで、

生徒は楽しく漢字を学べるのだ。審査員の私も毎年、目からウロコである。

白川静漢字教育賞の過去の受賞作品は、福井県の公式サイトの「白川文字学トップ

（https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/syoubun/shirakawa/taitoru2022nenndo.html ）」

から見ることができる。お時間があるときにご覧ください。